2024
読書案内2024

読書案内２０２４

狭工生に読んでほしい！先生たちのおすすめ本を紹介します！

紹介する本の横には分類番号を記載しています。
本の背に貼られたラベルの数字と一致しています。
この数字をもとに本を見つけることができます！

７２６
ア
１

←分類番号（一番左の数字が下記のグループを表します）
←著者記号（著者の頭文字）
←巻冊記号（シリーズものの巻数を表します）

分類記号は日本十進分類法に基づいて付与されています。

日本十進分類法 とは…？

図書館の本は、内容によって０～９の１０種類のグループに分けられています。

０. 図書館、総記
１. 哲学、宗教
２. 歴史、地理
３. 社会科学
４. 自然科学
５. 技術、工学
６. 産業
７. 芸術、スポーツ
８. 言語
９. 文学

※社会科学…法律や政治、経済、教育、民俗、社会保障や生活・消費者問題、労働関係など
※自然科学…数学、物理や化学などの理科系学問、医療・医学など
※技術、工学…機械や電気など、工業系の資料はココにあります！料理や裁縫関係もココです

漫画は 726 です。

７ 芸術 に分類されます！

探している本が見つからないとき、

本の感想を誰かに語りたいときは

司書に声をかけてください♪

校長　K 先生　おすすめ

🕮『お父さんが教える 13 歳からの金融入門』（338-ビ）

デヴィッド・ビアンキ 著

最近、新ＮＩＳＡとか、iDeCo（イデコ）など耳にする機会が増えました。これは投資といういままでの私達には、なじみのなかった商品です。少子高齢化社会の日本では、人々の資産形成について変化が見られています。そのため若い人は金融について知識を持つことが必要です。学習指導要領の改訂で金融教育が強化されてきましたが、しかし学校の授業だけでは教えきれない部分もあります。

将来の自分の資産形成のために、今のうちから勉強し、用語や仕組みなどを知っておくことは決して無駄なことではありません。そのための本書は非常にわかりやすい金融入門の一冊です。

将来働き出したときに、収入をいかに守るか、増やせるか。ローンを組むとはどういうことか。いろいろ参考になると思います。ぜひ最後まで読んで欲しいと思います。

国語科　H 先生　おすすめ

🕮『孤独のチカラ』（141-サ）

齋藤孝 著

皆さんは、「孤独な人」と聞くとどのようなイメージを持つだろうか？　「友だちの少ない人」？　「寂しい人」？　「かわいそうな人」？　おそらくこのようなマイナスでネガティブなイメージを持つ人が多いのではないだろうか。皆さんの中に、「孤独」という言葉にそのようなイメージが宿っているからであろう。

私も「孤独な人」と聞くと、「いつも１人でいる、友だちの少ない人」というイメージを持っていた（もっと言うと、私自身が「孤独な人」であると自分で感じており、「友だちが少ない」という自覚もあった）。しかし、私はこの本を読んで「孤独な人」に対して、プラスでポジティブなイメージを持つことができた。「孤独な人」に対して、「自分自身を深めて、自己成長していける人」というイメージに変わったのだ。

「孤独」の対極を考えてみてほしい。クラスを見回すと、「孤独な人」の対極の人は「友だちが多い人」、「いつも友だちと喋っている人」などが思い浮かぶのではないだろうか。それはそれで楽しいだろうが、いつも友だちと一緒、あるいは家族や恋人などの誰かと一緒だと、果たして「自分自身を深めて、自己成長していける」だろうか？　誰かと一緒にいる楽しさや安心感に紛れて、自分自身と向き合うことを疎かにしていないだろうか。その結果、自分を深めていき、自分の精神的な成長が不十分になるのではないだろうか。

皆さんには、友だちと一緒にいる、友だちと遊ぶ時間も大事にしてほしいが、１人でいる時間、つまり「孤独」な時間も大事にしてほしい。「孤独な人」というのは決して、マイナスでネガティブなものではない。「孤独な人」は自分自身としっかり向き合え、「孤独」というある種つらい状態に耐え、精神的な成長ができるというプラスでポジティブな人だ。皆さんも「孤独」を極め、「孤高」の存在になってみてはいかがだろうか。

数学科　O 先生　おすすめ

昔、『虎乃門（とらのもん）』という TV 番組のコーナー『こちトラ自腹（じばら）じゃ』で映画（えいが）作品を斬り（きり）まくった井筒和幸（いづつ　かずゆき）監督（かんとく）。井筒監督がよく「この映画は何を伝えたいのか判らない（わからない）！」と怒っていたことを私はときどき思い出します。因み（ちなみ）に井筒

監督は『岸和田（きしわだ）少年愚連隊（ぐれんたい）』や『パッチギ！』を世に出しました。
　今年の小原（おばら）のお薦め（おすすめ）本のテーマは情熱（じょうねつ）です。
情熱は、自分に強い「やりたいこと or 伝えたいこと」があると、自分の内側（うちがわ）から出てくるモノです。
　『ゲゲゲの鬼太郎』でお馴染み（おなじみ）水木（みずき）先生が大好きな南方熊楠（みなかたくまぐす）先生を描いちゃった作品。

🕮『猫楠（ねこぐす）　南方熊楠の生涯（みなかたくまぐすのしょうがい）』（726-ミ）
水木しげる（みずき　しげる）　著

　内容はもちろんフィクションですが、モデルの南方先生は、実在（じつざい）の人物です。
　日本の大学を退学（たいがく）、アメリカに留学（りゅうがく）、それも退学。学校へは入らずに、とにかく小さな小さな不思議（ふしぎ）な生き物たちを集めて集めて研究（けんきゅう）しまくり。大学は出ていないけど、学者として認められる。色々な国で小さな小さな不思議な生きものを集めまくった後、日本でさらに集めまくる為（ため）に帰国（きこく）。
　小さな小さな不思議な生き物たちがたくさん住んでる場所を護る（まもる）ために寺社（じしゃ）の合祀（ごうし）（お寺と神社を合併（がっぺい）させて片方は潰す（つぶす）こと）に反対（森林が減ったら困る）。反対活動の中で家宅侵入罪（かたくしんにゅうざい）で監獄（かんごく（檻（おり）の中））に入れられる。無罪（むざい）で釈放（しゃくほう）が決まり、看守（かんしゅ）が出て良いと呼びに来たけど、ただいま研究（けんきゅう）に没頭（ぼっとう）中。「ここへは誰も来ないので静かだし、その上涼しい。もう少し置いてほしい」と、檻（おり）から出ようとしなかった。とか、ああ変な人！でもものすごいエネルギー！そこに痺れる（しびれる）憧れる（あこがれる）。
　正直（しょうじき）言うと、私は南方熊楠（みなかた　くまぐす）先生のことを、あまり知りません。行き過ぎた認識（にんしき）を改める（あらためる）為に（ために）、ちゃんとした研究者（けんきゅうしゃ）の書いた本も読んでみたいわけで、現在（げんざい）一番（いちばん）興味（きょうみ）のある、読んでみたい本はこれです。

🕮『熊楠さん、世界を歩く。 冒険と学問のマンダラへ』（289.1-マ）
松井竜五（まつい　りゅうご）　著

　話は変わりますが、夏休みの私は城西（じょうさい）大学の福島尚（ふくしま　ひさし）展（てん）で福島先生の肉筆画（にくひつが（原画（げんが））を見ました。

🕮『福島尚鉄道画集（ふくしまひさしてつどうがしゅう）～線路（せんろ）は続くよ』（723-フ）
福島尚（ふくしま　ひさし）　著

　私は鉄道（てつどう）をそこまで好きでもなく、もちろん嫌い（きらい）でもなく、ただ便利（べんり）だと思っていますが、福島先生の絵は好きです。この画集の後ろに、福島先生のご両親（りょうしん）へのインタビューが載って（のって）います。その中に衝撃的（しょうげきてき）なエピソードがありました。「福島先生が就職（しゅうしょく）してすぐ、仕事に集中するようにと、福島先生の描いた絵や作った鉄道（てつどう）模型（もけい）を、お父さんが捨てて（すてて）しまった。」な、ななな、なんだって！？画伯（がはく）の絵、捨て（す

て）ちゃったの？そ、それは……、うわぁ……、か、かなりのショックだったと思います。（私もショック）信頼（しんらい）していた人に大事にしているものを捨て（すて）られたら、傷つきます。だけど、福島先生は復活（ふっかつ）しました。仕事（しごと）もするし、絵も描く（かく）生活（せいかつ）を獲得（かくとく）しました。

辛い（つらい）こと、苦しい（くるしい）こと、ショックなことから立ち直ることは、とても難しい（むずかしい）ことです。

大事なことなので二度言います。福島先生は立ち直りました。

そんな福島先生の電車への情熱（じょうねつ）が凄い（すごい）！この凄さ、使ったことのある駅や乗ったことのある車両（しゃりょう）が混ざっているから、余計に伝わってきます。

イラストも模型（もけい）も上手いと言えば、小・中学生の頃の私が大好きだったマンガ家がいます。

鳥山明（とりやま　あきら）

『cowa！』（726-ト）と、『SAND LAND』（726-ト）

鳥山先生の訃報（ふほう）を知ったとき、無くしてしまった『コワ！』を買いなおそうと本屋へ行きました。一緒に『サンドランド』を買いました。

『Dr.スランプアラレちゃん』や『ドラゴンボール』などを夢中で読んでいた幼い頃（おさないころ）に、なんとなく感じていた鳥山先生の伝えたいこと。この 2 つの短いマンガでクッキリハッキリ受け取りました！鳥山先生！受け取りました。ありがとうございます！

幼い頃は、笑って観てた『Dr.スランプアラレちゃん』だけど、戦争（せんそう）の続く現在（げんざい）になってみれば、切実（せつじつ）にガッちゃんに来て欲しい。片っ端（かたっぱし）から兵器（へいき）を食べまくって欲しい。あ、紹介してた作品と変わってしまいました。

鳥山先生のメカニックデザインも好きでしたが、幼い頃の私は大河原邦夫（おおかわら　くにお）先生のメカニックデザインが大好きでした。

🕮『タイムボカン全集』（778-ダ）

あ～でも～廃刊（はいかん）かも～。※1 知っていますか？大河原先生はガンダムだけの人ではないのですよ。（ガンダムのデザインも凄いけど）

大河原先生はデザインを考える為に my 旋盤（せんばん）まで持っているとか。旋盤を学校で勉強した私達であっても、「自分が自由に使える旋盤を持ちたい！」って思いますか？「デザインは物づくりと通じる」って、自然体（しぜんたい）で言っちゃう？その探究心（たんきゅうしん）、広い視野（ひろいしや）、行動力、格好（かっこ）良過ぎる（よすぎる）！

特に私が大好きなメカは『ヤッターワン』なのですよ。

メカの顔と主人公の顔が並んで画面（がめん）に映る（うつる）演出（えんしゅつ）も秀逸（しゅういつ）！闘い方（たたかいかた）も独特（どくとく）、今見ても斬新（ざんしん）。

（キングじゃない方が特に好きです）

タツノコプロ・サンライズ・マガジン・サンデー・ジャンプ……。確かに昭和（しょうわ）はとんでもないものが、たくさん生まれた時代でした。働き方も型破りでブラックなことが普通でした。現在（いま（げんざい））では過労（かろう）による体調不良（たいちょうふりょう）は休んで治すのが常識（じょうしき）です。しかし、

そもそも「休む」という発想（はっそう）が無い世界もありました。

🕮『あしあと ちばてつや追想（ついそう）短編集（たんぺんしゅう）』

（726-チ）

ちばてつや 著

ちば先生は、梶原一騎（かじわら　いっき（高森朝雄））原作『あしたのジョー』の作画（さくが）担当として有名なマンガ家です。その「有名な」ちば先生が若い頃に滅茶苦茶（めちゃくちゃ）やった話です。ちば先生の作品を１つも知らなくても、この破天荒（はてんこう）と情熱（じょうねつ）は、見応え（みごたえ）あると思いますよ。

悪ふざけの「電気あんま」で死にかけて、面識（めんしき）の無いトキワ荘の人達に助けられる話は壮絶（そうぜつ）だと思います。

上記（じょうき）に紹介（しょうかい）した、リアル破天荒（はてんこう）な先輩方（せんぱいがた）を見た後だとちょっと見劣り（みおとり）しますが、「チート」「転生（てんせい）」モノが好きな方へは「なろう小説」のコレを提案（ていあん）します。

🕮『剣と魔法と学歴社会 （けんとまほうとがくれきしゃかい）　～前世（ぜんせ）はガリ勉（がりべん）だった俺が、今世は風任せ（かぜまかせ）で自由に生きたい』（726-ニ）

西浦　真魚（にしうら　まお） 著

ネタバレにはならないと思うから書きますが、ミスター破天荒（はてんこう）こと主人公のアレンが転生者（てんせいしゃ）です。大人目線（おとなめせん）の私から見るとアレン（の中身）はかなり「オッサン」なのですが、１２歳の少年という設定です。

前生で自分の情熱（じょうねつ）に蓋（フタ）をして生きていたことを後悔（こうかい）した主人公が、風（かぜ（情熱（じょうねつ）））まかせに生き直そうとするお話（まだ連載中（れんさいちゅう））です。

若い皆さんは、西浦先生が若い頃の自分に対して、

「青春時代の何を後悔（こうかい）しているのか？」

または、

「青春時代の何をよすが（※2　一番最後に解説つけました）にして、辛い（つらい）ことの多い現代（げんだい）を耐えて（たえて）生きているのか？」

を、伝えようとしているのか？感じ取ってください。

西浦先生だけでなく私も、皆さんが高校生時代にしか得られないタイプの「よすが」を、高校生のうちに獲得（かくとく）して欲しいと願っています。（大学生しか得られない「よすが」も、社会人にしか得られない「よすが」も、……色々な「よすが」がありますが、今皆さんは高校生なので高校生時代にしか得られない「よすが」を得て欲しいのです）

因み（ちなみ）に、これは私からの皆さんに対するマウントですが、中学・高校生の小原は２重の意味でチームメイトに恵まれて、そんなチームメイトと狂った（くるった）みたいに部活ばっかりやっていたので、電気工事士（でんきこうじし）試験には落ちたけど、大学入試も失敗（しっぱい）したけど、私の中学・高校生活にそういう意味の後悔（こうかい）はありません。（他の意味の後悔（食物調理科の集団調理の朝の食券販売の列に１度も並ばなかったことなど悔やんでも悔やみきれないこと）はあります）部活で励まし（はげまし）合った仲間

（なかま）達との想い出（おもいで）が、私の「よすが」です。
「後悔先に立たず（こうかいさきにたたず）」と言いますが、ときにはまるで生きなおした（転生した）みたいに「先に後悔させてくれる」のも読書だと思います。
マンガからでも、画集からでも、ムック（雑誌（ざっし）と本の中間のモノ）からでも良いので、高校生の皆さんへとにかく読書をおすすめします。
あふれんばかりの情熱が本の中から皆さんへも、うつってきますように！

※1　発行年を調べたら、『タイムボカン全集２　悪の花道』なんて出てることに今さら気が付きました。２が出たことを知りませんでした。（地味（じみ）にショック！）

※2「よすが」は、
「身や心の拠（よ）り所、頼り（たより）とすること」という意味のほか、「身寄り（みより）、血縁者（けつえんしゃ）」、「手がかり、方法」といった意味をもちます。縁（えん）でつながった、自分にとって大切なものを表す言葉だそうです。漢字で書くと、かな表記が一般的（いっぱんてき）ですが、漢字では「縁」「因」「便」と書きます。
中学・高校生時代の私のチームメイトは、人間としても素晴らしく（すばらしく）、バスケットボールの才能（またはチームをサポートする才能）にも優れた（すぐれた）人達でした。部活は正月３日から新学期前日まで合宿したりとハードかつブラックでしたが、中学も高校も私が所属していた女子バスケ部は関東大会初出場（かんとうたいかいはつしゅつじょう）を果たし（はたし）ました。といってもベンチメンバーに入れない私は観客席（かんきゃくせき）で応援（おうえん）していました。
卒業後の私が何度も帰りたい（当然ながら、帰れない）と思った仲間達がいる体育館が、私の心の中には、いつまでもあります。そして、この仲間達との想い出（おもいで）が私が迷った（まよった）ときに道を選ぶヒントになることもあります。もちろんチームの誰とも血縁関係（けつえんかんけい）はありませんが、中高生時代の部活が私の「よすが」となっています。

英語科　I先生　おすすめ

📖『人間の証明 勾留 226 日と私の生存権について』（327-カ）

角川歴彦 著

司法制度への疑問と希望

『人間の証明』を読み、個人と権力の壮絶な闘いを目の当たりにしました。持病の薬を飲むことすら許されず、「角川さん、あなたは生きている間にはここから出られませんよ。死なないと出られないんです」と拘置所の医者に言われる場面では、日本の司法制度にまだ多くの改善点があることを痛感しました。特に、長期勾留による自白の強制や、冤罪が生まれる可能性には目を向けるべき課題が多く残されています。しかし、著者のように声を上げ、問題を世に知らしめることで、少しずつでも状況が変わっていくのではないかと期待しています。

この本は、ただ一人の人物の苦悩を描くだけでなく、人間の尊厳の大切さを訴えかけています。どんな状況に置かれても、人間としての尊厳を決して失ってはいけない、というメッセージが強く心に残りました。著者の経験を通じて、権力に屈せず、自分の意見をしっかりと主張することの重要性を改めて教えられた気がします。また、社会全体で個人の尊厳を尊重する風土を築いていくことの必要性も再認識しました。

この本は単なる一人の体験記にとどまらず、日本社会全体に向けられた大きな問いかけでもあります。私たち一人ひとりが司法制度に関心を持ち、より良い社会を作るために自分に何ができるのか、考えるきっかけとなる一冊です。

電子機械科　N 先生　おすすめ

🕮『このプリン、いま食べるか？ガマンするか？
一生役立つ時間の法則』（159-カ）
柿内尚文 著

タイトルからは想像しづらいですが、奥が深い内容です。
狭工生の皆さん！「時間」について考えた事がありますか？
この本で時間は①幸福 ②投資 ③役割 ④浪費 の４つでできていると紹介しています。

① 幸福：達成感、充実感、満足感を得たとき
② 投資：目標の実現に向けて何かをするとき（部活、勉強）
③ 役割：仕事や家事などやらなくてはいけない事をするとき
④ 浪費：何も考えず、ただ過ごすとき

人生は「幸福」と「投資」の時間が増えると充実すると言えます。
自分におきかえたときに勉強や部活が「役割」の時間になっていませんか？また、家で過ごす時に「浪費」の時間になっていませんか？
「時間」について深く考えられる一冊です。

電子機械科　H 先生　おすすめ

🕮雑誌『カブ only』
月刊 モトモト特別編集

ホンダのスーパーカブを中心とした、カブファミリーの雑誌です。車体の特集やメンテナンス、カスタムパーツ紹介、カスタムショップレビュー、カブのイベント紹介など掲載されてます。
バイク好きには、とても参考になり面白い雑誌です。現在 17 号まで発売されています。
興味のある生徒は是非読んでみてください。

司書　N　おすすめ

🕮『コンビニたそがれ堂』（913.6）
村山早紀 著

大事な探し物がある人だけがたどり着く不思議なコンビニのお話です。そのコンビニは「たそがれ堂」といい、猫好きな心優しい少年、ラジオ番組を担当しているアナウンサーの女性、大好きな家族と話すために人間になり

たい白猫など、さまざまなお客さんが迷い込んできます。たそがれ堂に訪れる彼/彼女らは、思い出の詰まった宝物をなくしてしまったり、誰かを傷つけてしまった行動を後悔していたり、はたまた悩みを抱えていたりします。そんな彼/彼女らがたそがれ堂で何を見つけるのか、ぜひ読んでみてください。

大切なものをなくしてしまうことも、過去の自分の言動を後悔することも、悩むことも、経験がある人が多いのではないでしょうか？おかれた状況は登場人物たちと違っても、共感できるところが一つくらいはあるかもしれません。また、この物語は読者に悲しさや後悔、悩みも受け入れて前を向ける力を与えてくれる作品だと思います。悩んでいるとき、元気が欲しいときにおすすめの一冊です。

🕮「読書ということ」　（『図書』2024 年 9 月号　P.16～P.19 岩波書店）（雑誌コーナーにあります）

原田宗典 著

『図書』9 月号に掲載されていた中で、印象に残った文がありました。

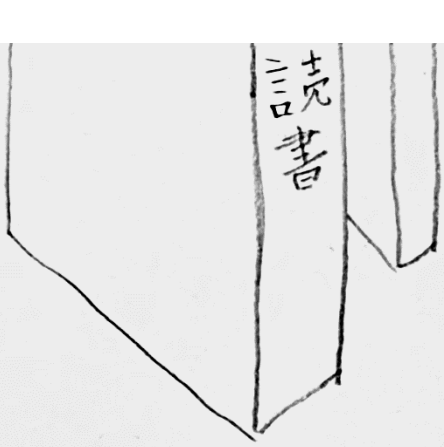
一冊の本を読み終えることが読書ではない。本を読んでいる時間を指して、読書というのだ。

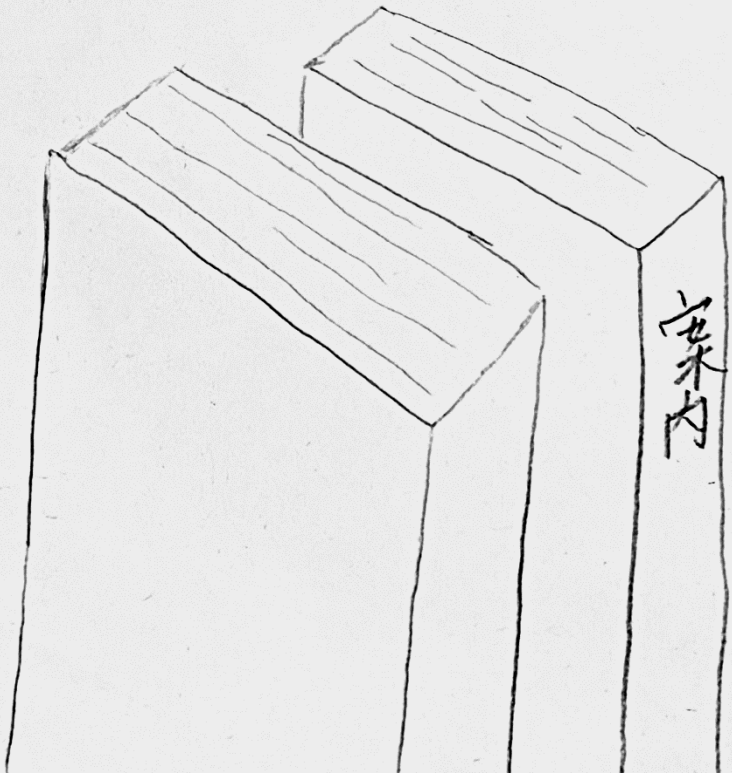
英文学者の福原麟太郎さんの随筆に載っていた内容だそうです。福原さんの元には、毎日たくさんの本や雑誌が届きます。すべてを読む時間はないから読み始めて面白くなくなったら読むのをやめ、別の本を読みます。そして、読書とは本を読んでいる時間のことだと考えているそうです。

そして、福原さんのこの言葉を名言として『図書』で紹介した原田さんは、一冊の本を読み切ることが読書だと思い込み、つまらない本を無理やり読むから読書に苦手意識を持つようになっている人がいるのではないか、と付け加えています。

「読書」の定義は人それぞれ、一冊すべてを読むことを読書だと考えても、本を読んでいる時間が読書だと考えても良いと、私は思います。どちらの考え方でも良いですが、自分が楽しく本を読める考え方を持つことができたら素敵だと思います。

「本はすべて読まなければいけない」という決まりはありません。気が向いたときになんとなくパラパラとページをめくるのも良いと思います。めくっている間に内容が気になって読み進めるようになり、好きな本、好きな作家が見つかるかもしれません。


三品書


案内